



漆付け

鹿革に手彫りの型紙を置き、上から漆を塗り込んだ後、室(むろ)で2~3日乾燥させる。漆が革に固着し、立体的な美しい光沢を放つには熟練の技が必要。

更紗

鹿革に型紙を置き、一色ずつ顔料を重ねていく技術。「寸分の狂いも許されませんね」と篠原さん

## 第76回正倉院展 協賛記念特別対談

# 革伝 新統へ

鹿革に漆で模様付けをする「甲州印伝」の総本家、印傳屋 上原勇七は、昨年に続き今年の第76回正倉院展に協賛します。これを記念し、印傳屋十四代上原勇七氏と、2022年、エゾ鹿革の着物で高い評価を受けたデザイナーの篠原ともえ氏が、伝統と革新をテーマに語り合いました。

### 戦国時代に創業 印伝は江戸後期から

今日は楽しみにしていました。

**篠原** 光栄です。エゾ鹿革は、人肌になじむ柔らかな風合いがあつて、とても魅力的でした。実は、かなり昔から、日本では鹿革が使われていたそうですね。

**篠原** ええ。入手しやすかったこともありますが、鹿革は軽くて丈夫なんです。1582年(天正10年)に創業した私どもも、初代

**篠原** 印傳屋が受け継いでい

**篠原** 今では、印伝といえば「鹿革に漆」です。ほかにどんな技法がありますか。

**上原** 印傳屋が受け継いでいる模様付けには、漆付けのほか、燻べ、更紗と3つの技法があります。

**篠原** 燻べは、大変な手間がかかります。正倉院には、燻べを使ったと思われる宝物も収められています。正倉院には、燻べを使つた6名います。

**上原** それは頼もしい。ぜひこの技を未来につないでいただきたい。

**篠原** それは頼もしい。ぜひこの技を未来につないでいただきたい。

**上原** そうですね。当社が昨

**篠原** そうですね。当社が昨

**上原** もともとは家督を継ぐ

**篠原** 当主のみが教わる二子相伝の技

**上原** 七の時、印伝の文化を広く伝

**篠原** ええ。丁寧に教わった

**上原** それが、丁寧に教わった

**篠原** それが、丁寧に教わった

**上原**